

平成 25 年度 口頭試験報告（不合格）

今回、総合技術管理部門一下水道で口頭試験を受験し、不合格となりました。

単に落ちた、というだけで終わらせては自分の気持ちとしても、社会としても得るところが少ないため、せめて私の経験を他の皆様の助けにできればと考えました。

本報告がどなたかの参考となれば幸いです。

- ・報告者：スリーハンドレッド（自治体職員）
- ・試験日時：平成 26 年 1 月
- ・試験会場：フォーラムエイト
- ・技術部門：総合技術監理部門一下水道
- ・面接官 2 名
質問は A 氏→B 氏→A 氏→B 氏→A 氏
- ・試験時間 21 分（入退室込みで 22 分）

● 試験開始

【質問者は A 氏】

① 経歴説明

A： それでは口頭試験を開始します。まず、経歴について簡単に説明してください。

私： 3分程度いただいでよろしいでしょうか。

A： はい。

私： それでは説明いたします。【模擬口頭と同様の説明。丁度 3 分】

- ・成長ストーリーは業務員→業務主任
 - ・リスクマネジメントを基調とした計画策定経験
 - ・安全管理レベルを下げることによる全体最適化経験
 - ・統計的手法による全体最適化経験
- など

② 現在の立場について

【しばしの間。この時点では手ごたえがあった】

A： 今は工事部門にいらっしゃる…。工事部門というのでしょうか？

私： はい。それは…

A： （遮るように）ああ、計画は計画だけで、工事ということですね。

私： （？工事部門の中に計画もあると考えた？）はい。現在は見識を広げるべく志願して、上水道の工事部門に勤務しております。

A： そうすると…さすがに新設というのはそんなにないでしょうから補修をやられているということですか？

私： はい。

【反省】

よくある質問の「総監技術を活かす場があるか」の変化球？大したことをしてない方向に回答してしまった。実際には改築更新。また大口径管の改築工事にも係わっており、これをアピールすべきであった。

A： わかりました。

③ 失敗談

A： いま経歴をご紹介いただいて、様々な計画を策定してきたということですがけれども計画を策定する中で、一番苦労したものというか、失敗談みたいなもので何かあるでしょうか。

私： 失敗談でしょうか？

A： はい。失敗談です。

私： 失敗談としましては、就職して2年目の初めですが、公共ますの修繕工事の監督を務めた際に、家屋側からの排水管のうち1本が、ますにつなぎかえされていないまま工事を完了してしまっただけ、という失敗がございます。

これは振り返りますと、監督員として施工業者のミスを見逃しできなかった品質管理の失敗であったと思います。チェックのポイントがわかっていなかったという教訓を踏まえ、現在では、チェックリストを使用して、ミスが生じないように管理しております。

また、私の教育、という意味を込めた業務であったと思いますが、教育という人的資源管理と品質管理のトレードオフ解消に失敗した事例であるということもいえまして、このため、私が後輩に教育を行う際には、勘所では私がポイントをチェックすることとして、後輩が安心して、教育と品質を両立できるように務めております。

【反省】

話過ぎた…

A： それは施工業者がミスをした、ということだと思いましたが、それを最終的にあなたがチェックしなかったということですか？

私： 漏れてしまっていた、というところでした。

A： 今であればそれをチェックする、と。

私： 重要なポイントについてはチェックリストなど定型的なものでチェックする必要があると思います。

A： はい、わかりました。

④ 業務で注意していること

A： 総合技術監理の言葉を色々といれていただいているのですが、全体として一番気をつけていること、今、事業部所にいるということは何を中心に考えているというか、意識しているでしょうか。

私： はい。常に5つの管理の視点から物事を捉え、漏れのない監理を行うこと、例えば、社会環境管理に該当するものがなさそうな場合でも一旦はその管理の視点からみる、と。また、5つ

の管理の間ではそれぞれ別の方向性が提示される場合があるため、それぞれのミニマムリクワイヤメントを把握し、リソースとした上で、全体として最適な業務とすることが求められていると思います。

A： そうですね…そうなんですけど、えっとなんといいですか。総合技術監理はおいておきまして、日頃のお仕事で一番気をつけていることはなんでしょうか。

私： はい。経済性管理の中で特に品質管理に留意しております。私は、地方公共団体の公務員としてインフラの企画から運転段階まで責任を負いますので、品質というものが、安全、そして社会環境管理においても重要であると考えております。

【反省】

品質管理のためにしていることを具体的に述べるべきであった。

【質問者がB氏に交代。以下、小論文について】

⑤ 優先順位のつけ方について

B： 小論文で改築対象となる下水管路を絞り込んだ、ということですが、どのように絞り込んだか考え方を教えてください。

私： 当地区の下水管は杭基礎で支えられております。一方で、周辺の地盤は沈下していくので、宅地などに対して、下水管の土被りが想定的に浅くなります。道路の陥没や臭気苦情は、結局は地盤沈下の結果生じるものであることから、ここで、地盤沈下の程度を示す指標として土被りに着目し、土被りの程度につき、4段階の優先度をつけました。その上で、特に悪いものを改築することで、安全、社会環境管理上の問題に対し、未然防止を図ったものです。

【反省】

小論文に記載していた総監用語（新QC7つ道具）に関する説明をしなかった。

⑥ 危機管理体制について

B： 先ほどの経歴で危機管理体制を整えたということでしたが、具体的にはどのようなことですか。

私： ～所属組織に関連する事項のため省略～

B： 実際にその体制を活用したことはありましたか？

私： 不測の陥没などが生じたことはありませんでした。ただ、当地区内では、下水道の上がかまぼこのように盛り上がり、道路面を切り下げる工事が必要な場合があります。このような場合に、道路を切り下げると下水管が浅くなりますので、先行して下水管を深い位置に改築するといった対応を行ったことはございます。

⑦ プロジェクトチームについて

B： プロジェクトチームとあるが具体的にはどのようなものですか

私： ～所属組織に関連する事項のため省略～

B： あなたはこのプロジェクトチームの中でどのような役割を果たしたのですか？意味がわからないのですけれども

私： 実際には3か月程度という身近に期間で、プロジェクトというよりはタスクフォース的な組織でしたが、その中でアドバイザー的な役割を果たしました。施工費算出にあたっては、下水管の深さなどが必要になりますので、私が計画を策定し、それを基にベテラン職員の方々が施工費をはじく、といった関係でした。

【反省】

ここでも中心だった、くらいのことは言った方が良かった。また、タスクフォースはいうべきでなかった。

B： うまく機能しましたか？

私： はい。結果的に、事業費の枠内で事業費が完了しており、精度の高い施工費を得ることができました。また、実際の施工にあたっては、若手職員も工事の発注を行っているのですが、工法検討段階から情報を共有していったことから、工事がやりやすかったという感想を得ており、工事の円滑な進捗という点からも効果がありました。

【再び質問者がA氏に交代】

⑧ 今後の財政状況の中での事業の進め方について

A： 予算があれば品質を大事にする、ということはわかりました。ただ、今後財政はますます厳しくなっていくと思います。小論文の話とは切り離して、そのような中でどのように業務に取り組んでいくべきだと思いますか？

私： より予防保全的な体制、と申しますか、まずストックマネジメント体制の構築が必要であると思います。これにより、経済性管理のみならず、安全や社会環境管理上の問題も未然に防止できると思います。また、この際、データベースの整備が重要になりますので情報管理による支援も重要と考えます。

A： そういった工事すらできないほど予算がなかったらどうしますか。

私： 非常に厳しい状況だとは思いますが、そのような場合は、住民の方々に行政としてここまではできるがここからはできない、といった事情を説明して、コミュニケーションをとる、と申しますか社会的な受容を確保していく必要があると思います。

また、パトロールや点検などでは住民の方々の協力を得ることができる部分もあるかと思いますが、言葉は悪いですが、住民の方々にリソースになっていただく、そのような取り組みも必要になってくるかと思っています。

【反省】

小論文の話とは切り離して、ということで失念してしまったが、前提条件変化問題？理想としては、回答した「新たにリソースを生み出す」というよりは、「ミニマムリクワイヤメントを満たす範囲で品質・コスト以外の管理レベルを落としてリソースを生み出す」といった回答にすべきだった。

⑨ 今後の日本について

A： 今後、下水道に限らず、道路や水道など、ますます財政状況などが厳しくなっていくわけですが、そういった中で日本はどのような方向に進んでいくべきだと思いますか？

私： やはり、より選択と集中を進めざるを得ないと思います。また、人材の面でも不足していくかと思うので、包括的な民間委託や広域化といった取り組みを進める必要があるかと思います。また、民間の事業者の方々には国内だけでは十分な利益を上げられない、という場合もあるかと思うので国際化といったものも必要かと思います。

【反省】

日本、ということで国際化をいってしまっただけ…追手がかかった。

A： それは〇〇市の工事を外国にやらせる、ということですか？国際化とはどういうことですか。

私： 自分の所属する組織を超えてしまい恐縮ですが、現在〇〇市でも民間の方々の活力というのが少なくなっており、国内だけでは利益を上げきれない場合があると思います。このため、G C U Sなどの枠組みを使って、下水道事業全体として海外でも利益をあげていくことで国内の人材も確保できるのではないかと思います。

A： それは海外で民間が稼いで、それを国内で税金で納めて、めぐりめぐって〇〇市にもお金が入るとのことですか。

私： はい。技術の発展ということにもつながると思います。

【再び質問者が B 氏に交代】

⑩ 行政の立場からの総合技術監理

B： 行政の立場から、総合技術監理部門にどう取り組むべきだと思いますか。

私： はい。行政は、インフラの企画から運転段階まで、あらゆる段階で責任を負います。いいかえますと、すべての責任を最終的に負う立場にあります。

このため、各フェーズ、計画、設計・施工、維持管理の段階ごとに 5 つの管理の観点から適正に管理していく体制を確保する必要があると思います。

【反省】

責任、責任言い過ぎた。また各フェーズの関連性についても述べるべきだった。

⑪ 他部門技術士の取得について

B： あなたは別部門の技術士を持っていますか？

私： はい。上下水道部門を持っています。

B： ああ、上下水道だけね…

【反省】

ほかに 1 級土木施工管理技士を取得している」とアピールすべきだった。

【再び質問者が A 氏に交代】

⑫ 5 つの管理以外に必要なもの

A： 総合技術監理を行う上で、5 つの管理以外に必要なものには何があると思いますか？

私： はい。強い倫理感と公益確保の志だと思います。

【反省】

次の設問から察するに回答として「総合管理技術」を期待された設問だった。また、公益確

保は倫理に含まれるので、あえて特別にいう必要はなく、むしろ国際的視点というべきであった。

A： うーん。そうですねー。ただ、5つの管理だけやっていればいいのですかね。他にありませんかね。

私： （少し考えて）…はい。重複してしまうのですが、やはり、5つの管理の土台となるのが、倫理であり、公益確保ですので、これらが必要かと思います。

【反省】

助け舟に乗れなかった…

⑬ 倫理について

A： うーん、確かにそうですね。倫理ですね…ただ、これがうまく機能してない場合って結構ありますよね？これについてはどう考えますか？

私： （5つの管理と倫理だけでは不足であることの示唆？最後の助け舟？無理やりにでも総合管理技術の必要性ををねじ込もう）

はい。5つの管理だけでは、最適解にたどりつけない場合がありますので、業務全体をトータルでみて、最適にする、総合管理技術が必要であると思います。

最近、私の地元のJRで倫理に関する様々な問題が生じておりますが、情報を発信するのはいいですが、その品質が低いなどの問題があり、総合技術監理が適正に機能していなかった事例だと思います。

【反省】

総合管理技術として、リスクマネジメントや意思決定法など、具体的な回答をすべきだった。

【A, Bで顔を見合わせて】

A： それでは時間になりましたので試験を終わります。

私： 本日はありがとうございました。

● 試験終了

～以降は合格発表後の3/6記載～

残念だが結果は不合格。

6割程度の回答はできたと感じていたのだが…

また、最大30分であるはずの試験が入退出時間込みで22分であり、もう少し時間が貰えればあ
るいは…という無念さも残る。

しかし、納得がいこうがいくまいが、結果は変わらないのでまずは現状を受容する必要がある。

今回、不合格となった要因としては以下が考えられる。

- ① 30代前半と若かったこと
- ② 筆記試験の内容が悪かった？

個人的には①のせいになりたい気持ちがあるが、ここは無理やりにでも②だと思い込んで自己研鑽に励むほかない。

話は変わるが、今回、総監の下水道は申込者 369 人、受験者 272 人、筆記試験合格者は 30 人、口頭試験合格者は 29 人であった。

つまり、口頭試験不合格者は自分ただ 1 人であった。

口惜しい一方で、非常に稀有な経験ができたとも思う。

これから合格までは「**300 人に 1 人の男**」というフレーズで自分を発奮させ、頑張りたいと思う。